

OMNIBUS

大阪医科大学図書館報 / 大阪医科大学附属看護専門学校図書室報

| C | O | N | T | E | N | T | S |
|--------------------------------------|---|---|---|---|---|---|----|
| 雑感 [北浦 泰] | | | | | | | 2 |
| 正仮名の効用 [林 秀行] | | | | | | | 3 |
| デイルームは療養生活の心のオアシス 21世紀の医療環境(6) [牧 彰] | | | | | | | 4 |
| 外交も食にあり - 食い道楽大使の証言より - [勢川瑠美子] | | | | | | | 5 |
| 書を持って 山へ出よう [松村 英樹] | | | | | | | 6 |
| 図書館の利用状況 | | | | | | | 7 |
| 他大学図書館訪問記(10)(滋賀県立大学図書情報センターの巻) | | | | | | | 9 |
| 書評「臨濟録」[渡邊 房男] | | | | | | | 10 |
| 平成11年度図書館統計 | | | | | | | 11 |
| 本学教職員著作寄贈 | | | | | | | 12 |
| 図書館業務日誌 | | | | | | | 12 |
| 編集後記 | | | | | | | 12 |



雑 感

北 浦 泰



毎年、春になると中学校の同窓会があります。その時代に戻って皆の懐かしい話や楽しい話に夢中になるわけですが、中には人生の弦に触れるような話も飛びだします。

先日の同窓会で、なぜ自分が今日の職業を選んだかが話題になりました。私のような何となくという無責任派や生活のためという現実派が多いわけですが、特殊な職業を選んだ人には特に理由を聞かせてもらうことになりました。先ず、書家として成功している Kさんが槍玉にあげられました。Kさんは当時、決して習字が上手でなく皆が不思議に思っていたからです。理由は簡単でした。習字の時間にたった一度褒められたこと、それも字が上手というのではなく名前の配置が上手であると褒められたことが動機になったことがわかりました。今でも覚えています。その時に悪例として引き合いに出されたのが私の作品でした。二度と習字なんかするものかと誓ったことを白状すると皆にどっと笑われました。さらに、そのおかげで今も悪筆ですと言うともう笑いが止まらない状況になってしまいました。次に、画家の I君も色使いが上手なのを褒められてその道を選んだことを知りました。私のクラスにはこのような人が少なくありません。しかし、戦後の教育は平等の重要性が過大視される余り、欠点を直すことに執着し過ぎたように思われます。

J・マフィーは「積極的に仕事ができ成功している人は、他人の長所を発見できる能力に優れている」と言っています。実際、学生に欠点を改めるように指導するより長所を褒めるほうが遥かに効果的であることをよく経験します。良いところを褒めて学生がやる気になると長所が驚くほど伸びるだけでなく、不思議に短所も改まってしまいます。また、同じことはスポーツについても当てはまるように思います。ゴルフで欠点を改めようと一所懸命努力しても空しい努力に終わることが少なくありませんが、反対に長所を伸ばすことによって欠点が知らない間に改まっていることがあります。教育はともすれば人の短所・欠点にこだわる余りにこれのみを是正しようと努力し過ぎているのではないかと思います。短所・欠点を直そうとする努力は面白くなく、たとえ直しても基準に達したに過ぎない努力も多いのです。

さて話が変わりますが、最近、医学教育についてのシンポジウムやワークショップが行われ、しばしば患者と医師の関係が議論されています。過去の大家の著書を見るかぎりでは医師と患者の関係は、殆どが「医師の患者（弱者）さんへの思いやりと医師（強者）の倫理規制」を基本としています。市民社会の成熟と共に市民運動などによってようやく双方の立場が自覚できるようになりました。現在では「医療の主体は患者さんにある」ことを我々医師も抵抗なく受け入れられるようになってきました。インフォームドコンセントや情報公開も人間の尊重と平等という哲学的人間観に深く根ざしていることは言うまでもありません。しかし、実際に医療の主体を患者さんにおいた医師との相互参加により医療の目的を達成することは必ずしも容易ではありません。私は、医師の使命感や奉仕の精神を超えて自然にこれらを行えるようになりたいと考えると共に、自然科学としての医学が驚異的に進歩し医療が著しく高い水準に達した今日、もう一度医療の原点に立って精一杯に人間的努力をしたいと思います。

（きたうら・やすし 第三内科学教授）

正仮名の効用

林 秀 行

父母がよく話題にしてみたのが「蝶々」の表記である。大正生れの父は「てふてふ」と綴り、昭和一桁の母は国民学校で「ちょうちょう」と習った。昭和十七年七月十七日に国語審議会が漢字音は発音通りの表記にすることを決定したためである。戦後はさらに和語の表記も原則的に発音通りとなつて今に至つてゐる。仮名は本来音を表すものだからこの変化は一見合理的である。

しかし、自分が学校で国語を学んだときのことを思ひ出すと、さうとも言へなくなつてくる。

「学」はガクなのに「学校」になるとガッコウとなるのは何故か。次に力行が来ると促音便になると説明されて、それでは「本格化」をホンカッカと書かないのはと問ふとそれは例外だと言ふ。一々そんなこと憶えてられるかとすつかり国語が嫌ひになった。新仮名の「ず」と「づ」の使い分けに至つては噴飯ものである。

北京語では消滅したが、広東語では入声と呼ばれる k, p, t の子音で終る漢字音があり、日韓越が漢字を取り入れた頃の発音を残してゐる。「学」は韓国のハングルでは hak と表記されてゐる。つまり日本でも「学」は本来 gak であり、gaku ではないのである。さうすると「学校」は gak + kaw で gakkaw であり、何も促音便ではないことになる。ガクは gak であると見做せば、正仮名遣ひのガクカウのままでも良かったのである。欧米人に発音させても gak の方が日本人の発音に近いであらう。日本語をローマ字表記するとやたら u が目立つてしまひ、審美的にもいま一つの観があるのは、漢字音の仮名表記を機械的にローマ字に変換してゐるからである。

いま上で「校」を kaw と書いたのは理由がある。現代の発音では「公」も「高」も「光」も「甲」もコウである。しかし、本来コウ、カウ、クワウ、カフであつたものを一緒にしてしまつたために、現代日本語は世界に稀に見る同音異義語の多い言語になつてしまつた。あるアメリカ人に「全く意味の違ふコウショウといふ単語が46個ある」と言つたら、よくそれで意志疎通ができるものだと思はれた。事実、我々の会話では多かれ少なかれ漢語の部分で声調を変へ、場合によつては注意を促す合図の目配せまでして、意味を伝へようとしてゐる。正仮名遣ひ通りの発音をすればこの苦勞は半減するはずである。

私が正仮名遣ひを評価するもう一つの理由は、それが漢字文化圏の中で持つ意義にある。正仮名遣ひに基づいたローマ字表記をすると「王」「光」「維」はそれぞれ waw, kuaw, wi である。現代北京語ではそれぞれ wang, kuang, wei (Wade 表記) である。今の日本人は中国語で「王」をワンと発音することを知つてゐても、オウとは似ても似つかない発音だと思ふであらう。そのことが中国との心理的距離を引き延ばしてゐることは想像に難くない。「越(エツ)」も wet とローマ字にすれば越南 = viet nam との対応がよく解る。正仮名遣ひでの漢字音表記を知つてをれば、中国語、そしてそれ以上に韓国語の漢字音とは法則的に変換することができ、学習上の利便が期待される。時代錯誤とか保守反動とか思はれてゐる正仮名遣ひこそが周辺諸国との交流に役立つのである。

正仮名遣ひを復活させることには特に現代発音との乖離について懸念があるだらう。しかし、日常会話は大部分和語であることを考えると、混乱は意外と少ないのではないだらうか。むしろ正仮名遣ひの持つ合理性のために小学生や外国人には受け入れ易いかもしれない。和語の正仮名表記では基本的に母音が連続しない。このことも、ローマ字表記した場合には外国人にとつて都合がいいであらう。

かつて三木総理は正仮名遣ひ通りに「・・・に閑(くわん)して」と発音してみたが、違和感はなかつた。もし正仮名遣ひが浸透したらおのづと正仮名式発音も出てくるであらう。よく言葉は乱れるものだと言はれる。しかし一方で人間は合理性・整合性を求める気持ちを持つてゐる。だから私はずつと将来に正仮名遣ひが見直される日が来るのではないかと思つてゐる。

【蝶】
33333
テフ (集韻) 達協切 (夔)
カニセ (二) 蝶
テフ (集韻) 達協切 (夔)
カニセ (二) 蝶
●てふ。こてふ。てふてふ。かひびら。蝶
兒。蝶 (ト) (3333) の俗字。(説文) 蝶、蛺蝶
也。(段注) 俗作蝶。(集韻) 蝶、蟲名、或作
蝶。(古今注) 魚也。蛺蝶、一名野蛾、一名風
蝶。(江東呼爲) 蝶末。(附雅翼) 釋蟲。胡蝶、今
菜中青蟲、當春時、緣行屋壁或草木上、
以絲自固、一夕視之有圭角。六七日其
背罅裂、蛻爲蝶出矣。云云。而唐陸王圖畫
蛺蝶有江夏斑大海眼小海眼村裏來菜花
子之目。●蝶蛸は、蟲の名。(廣韻) 蝶蛸。

諸橋轍次「大漢和辞典」修訂版、
大修館書店(1986)より

(はやし・ひでゆき 医化学助教授)

デイルームは療養生活の心のオアシス - 21世紀の医療環境 (6) -

牧 彰



ワイドな眺望が嬉しい赤穂市民病院の [デイルーム]

「病気は [造化の主] が今までの人生を見直し、今後の生き方を思索するために与えてくれた絶好の機会である。」ふと目に触れたこの一節に、私は深い感銘を受けました。多くの人にとって入院は決して人生の挫折などではなく、滅多にない「自分を見つめ直す」時であり、長い人生に於ける [心のオアシス] として捉えたらよいのでしょうか。病院は「揺籠から墓場まで」の言葉通り [人生の縮図] であり、弱者 (患者) と健常者 (医療従事者) が共存する [社会の縮図] です。万人にとっての [意義あ

る人生] が切に望まれます。

生物には生きようとする [生命力]、癒そうとする [治癒力] が自ずから備わっています。医師や看護婦などの役割は、「患者のこの [神秘的な力] を支援する」に尽きます。入院患者にその力を存分に発揮させるために大切なことは、四季折々の自然と自在に触れ合う生活環境であり、患者自身の [心の安息] です。故に、病棟は [隔離し収容する施設] から、家庭の延長にある [喜怒哀楽の居住環境] への転換が求められています。[健全な療養環境]こそ真に病を癒し、心の籠った看護とは、[病棟のアメニティ] でもあるのです。

患者への人権軽視と侘しい療養環境のため、欧米人は日本の病院に入院したがりません。在来の日本の病院は、「病んだ心身を真に労り、一度だけの人生について心置きなく反芻する場」ではありません。デイルームは入院患者が心から寛げる [憩の間] であり、病棟と言う家庭の居間兼食堂です。充実した療養生活は、偏えに [デイルームのアメニティ] の如何にあると言えます。

自然の光・風を存分に取り入れた赤穂市民病院のデイルームは、天候や季節の移ろいを直に肌で感じられます。眼下に広がる千種川の清流を存分に眺めるために窓の中央部には視界の妨げになる方立などは一切設けず、ガラス越しに望む瀬戸内の海や島々を趣のある [一幅の風景画] として捉えました。これにより、赤穂の美しい山河は余すところなく療養生活に組み込まれ、河口に群れ集うユリカモメや遡上するボラの観察が楽しい [アメニティ溢れるデイルーム] となりました。

美味しい食事は須く五感 (視・味・嗅・触・聴) で味わうものです。朝日が燦々と降り注ぐデイルームで、美しい郷土の景観を愛でながらの朝食はまさに最高の気分です。食欲の増進は、体力を回復させ病を治す医療の基本です。快食・快便・快眠こそ健康の証なのです。中国五千年の食文化 [医食同源] がそれを如実に語っています。

また、デイルームには開架書棚を設けて、図書サービスは院内のボランティア活動にお願いしました。読書こそ単調になりがちな療養生活の [心の糧] です。テレビや週刊誌などでは決して心の乾きは癒されず、[人間性の回復] には程遠いと言わざるを得ません。真に「病んだ身体に宿る心を励まし、生命の尊さを自覚させ、生きる勇気を培う」ためにも、適度な読書は有効です。最近、図書館による地域サービスが病院にまで拡がり始めました。新市立図書館 (計画中) の市民病院への出張サービスが夙に望まれます。

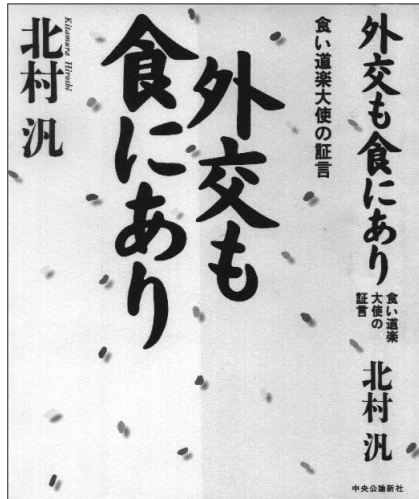
古代ギリシャの医聖ヒポクラテスは「自然から遠ざかるほど人は病に近づく」と唱えました。近代になって、ナイチンゲールは「癒せるのは自然だけであり、看護とは自然が人に働きかける最も良い状態に患者を置くこと」と記しています。自然は過密と騒音に疲れた現代人の乾いた感性に真に安らぎと寛ぎを与え、「人間もまた自然の一部である」ことを更めて自覚させてくれます。病んだ心身は自然に包まれ抱擁されてこそ真に癒されることでしょう。自然の分身である私たちは、「自然に生まれ、自然に生き、自然に帰る」存在なのです。

(まき・あきら 元日建設社社員 本学総合研究棟・本部図書館棟設計担当)

外交も食にあり - 食い道楽大使の証言より -

勢川 瑠美子

最初にお断わりをしておかなければなりません、私自身は決して「グルメ通」とか「食い道楽」とかの範疇には入らない人間であると自認しております。人一倍好奇心は旺盛でして色々なことに興味をもちます。食に関することもその興味の一つだと思っております。世の中が平和になり、物質



が豊富になり、飽食の時代といわれてきました。戦争を体験した私にとって食に対するこだわり、思いはもっと切実なことだったような気がしております。中学時代の恩師に「和」は「いねを口にする」「食を共にするところに争いはない」と教えられ、そのことはずっと頭の中に残っていました。又、教員講習受講時の法曹でいらした講師の先生は、講義や講演、その他何を始める時にもその導入に、和菓子の中に入っている「由来」を使ってはじめることにしていると話されました。人それぞれ思いは異なりますが、食に対するこだわりがその人の生き方にまで影響していることに関しては話題に困ることはないように思われます。旅をしたり、仕事で知らない土地に行くことがありますと、その土地でなければ味わえないものを求めて歩き、

思い通りになったり、思いがけない逸品に出会った時はとても得をしたような気持になったものです。京都市内で1年に1日だけカレーを1円で食べさせてくれる店があり、並んで食べに行った遠い昔のこと、最近では東京の浜松町近くで、メニューについての値段はなく「1分30円」のレストランがあるとか...すべての品が店に入って出るまでの時間で支払う。例えば冷麺を3分で食べれば3分×30分で90円を支払う、猫舌の人が熱いコーヒーを10分かけて飲むと300円とか...結構な人気だそうです。機会があれば...とメモをしている1店です。この程度の関心で終わっていた私にとって、「外交も食にあり」- 食い道楽大使の証言より - 北村 汎著に出会えたことで、食に対するこだわりが変わったというべきか、もっと高尚になったと思えるようになりました。中学時代の恩師の「食事を共にするところに和がある」と教えられたことも、ここにきてしっかり結びついた気がしています。

北村氏の少年時代は造り酒家で育ち「もし、父が造り酒家をやめていなかったら、私は外交官などにならずに、今頃、酒造りに没頭していたかも知れない」この想いは、大学を出てアメリカに留学し、外務省に入った後、フランスのワインの産地に勤務した時にあちこちのワイナリーを訪れ、ワインを試飲した時ワインの発酵の匂いと少年時代に嗅いだわが家の酒蔵の匂いとが交錯し、ワイナリーを訪れることがあたかも自分の心の故郷に帰るような気がした。味にうるさい祖母の影響もあり、少年時代に味わったわが家の料理は水準以上のものであった。外交官として外国の政治家や実業家や報道関係の人たちと友好を深めたり、交渉したり、情報を交換したり、あるいは説得に努めたりしながら食事をともにする機会が増えてくるように、外交という人間同士のやりとりの中に占める食事の大切さをしみじみと感じるようになった。要するに外交とは、相手の国の要人たちや国際機関の人達と連日付き合って、理解と、信頼を深めつつ、互いに協力したり説得したりし合っ

慮」「照明には優しさを」「料理人への配慮」等、こまやかな心くばりが書かれていて、外交を成立させるための配慮に満ちています。ある英国の政治家が「素晴らしいディナーだったと後に残る食事は、おいしい料理と気のきいたスピーチの織りなす協奏曲みたいなものだ」といわれた一文がありました。食を楽しむことは勿論のことですが、その時その会の中で簡略で軽妙なスピーチを「協奏曲」と表した方の人柄の豊かさが楽しく、読み終えた今も心地よい余韻として残っています。

(せがわ・るみこ 看護専門学校長)

書を持って 山へ出よう

松村英樹

朝の静けさの残る信濃大町からバスに乗り、扇沢へと向かった。天気もまずまず、長年の夢であった後立山連峰縦走がいよいよ始まる。気分は徐々に山モードに変わっていく。

後立山連峰をご存知だろうか。長野県の松本から白馬にかけてのフォッサマグナのすぐ西に連なる山々である。富山側から見ると立山の後ろ、黒部川の向こうに連なるため、その名がつけられたそうである。昨年の夏、私はその山々をひとりで歩いた。自分で計画を立て、テントも食糧も全て自分で担ぎ、自分の思うままに歩き、休憩し、食べ、そして眠る。まったく、自由であった。

観光客のまだまばらな扇沢を後にして、いよいよ山道に行く。標高の低い樹林帯の登りなので、すぐに汗が出る。ゆっくり歩を進め、小一時間で休憩。ぼんやりと休んでいると本当に静かである。森に溶け込み、自分の存在が消えてしまったかのようだ。ふと、木の上からする音に気付いた。何かが上の方からやって来る。何だろうと見上げていると、リスと目が合ってしまった。

樹林帯を抜けると種池山荘に出る。小屋の横にその名の通りのかわいらしい池がある。稜線に出たためか風が強く、ガスも出てきた。水分を含んだ冷たい風に吹かれて、真白なガスの中を爺ヶ岳に向かう。景色も見えず、夏

なのにすがすがしいどころか寒い。ひとりで歩くのは、辛い。こんな天候の時の慰めは、雷鳥に出会えること。爺ヶ岳の周辺で幾度となく雷鳥の親子に出会った。登山者を警戒し我が子の安全を確保しようとする親鳥と、そんなことには頓着せず気ままな雛たち。はじめは嬉しくて写真を撮っていたが、少し歩くだけで次々に出会うので、シャッターを切るのも飽きてしまった。

この日は冷池でキャンプ。1日の行動を早めに切り上げるようにしているので、夕食の準備まではのんびりできる。こんな時のお気に入り、ミルクティーを飲みながらの読書。時間と試験に追われるルーチンのような生活を離れ、山という非日常の自由な空間に身を置き、普段は楽しむ余裕のない読書をする。非日常を堪能する、こんな時の本は、なじみのない難解な本がいい。山に行く前、私はいつも図書館さわらぎ分室で岩波新書の新刊を漁って、医学や自然科学とは縁のなさそうな本を借りる。今回山に持ってきたのは『近代の労働観』(今村仁司著)。期待通り、なかなか理解不能…。



唐松岳にて 剣岳・立山をバックに。

テント内でのんびりしていると、ガスが晴れてきたようだ。岩峰と雪溪が無言で山の厳しさを語っているような剣岳が眼前に鎮座する。明日から大好きな剣岳を左に眺めつつ、これまた大好きな後立山連峰の核心部を歩く。何という幸せ。

夜明け前から起きだし、鹿島槍ヶ岳へ向かう。今日も風が強く、ガスの中である。展望を期待してしばらく鹿島槍の山頂で待つが、あきらめて先へ進む。いよいよ後立山の難所のひとつ、八峰キレットに足を踏み入れる。鹿島槍から下りはじめてすぐ、中年のグループに出会う。道を譲って脇に立っていると、私の目の前で女性がバランスを崩し「あら、あら」と言いながら、スローモーションを見ているように谷側へ体ひとつ分滑り落ちた。グループのリーダーらしき男性と共に女性を引き上げる。幸いかすり傷程度で大事無い様子。無事を喜ぶとともに、改めて山での危険を認識する。他人の助けを期待できない単独行の私の場合は、なおさら注意しなくてはならない。単独行は自由である反面、己の面倒は己で見るしかない自己責任が要求される行為であると、肝に銘じた出来事であった。

景色や高山植物、吸い込まれそうな紺碧の空、満天の星空、山頂に立ったときの充実感、気の置けない仲間との行動など、登山の楽しみは人によって様々であろう。私自身もその時々で様々に変わっていくので、登山の何が楽しいのか、なぜ登山をするのかを、簡潔に答えることは難しい。非日常の状況に身をおいて、様々な事に思いをめぐらし、日常生活を見つめ直す。これが最近の私にとって、山での楽しみのひとつである。

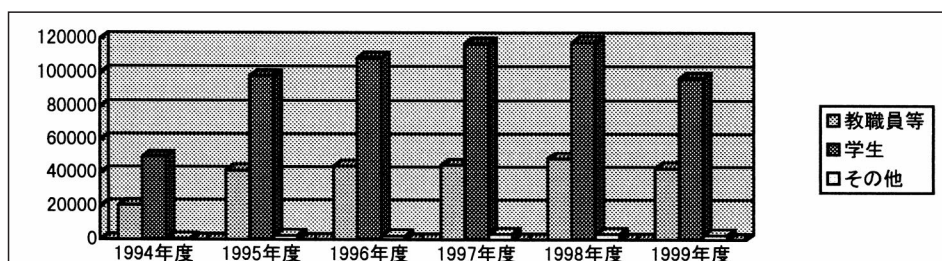
単独縦走はその後、五竜岳と唐松岳の間で鮮明なブロッケン現象に出会い、もうひとつの難所の不帰ノ嶮、登山者の多い白馬岳を超え、観光客の集う梅池自然園へと下りた。

(まつむら・ひでき 5回生)

図書館利用状況

(1994年度～1999年度の推移)

1. 入館者数

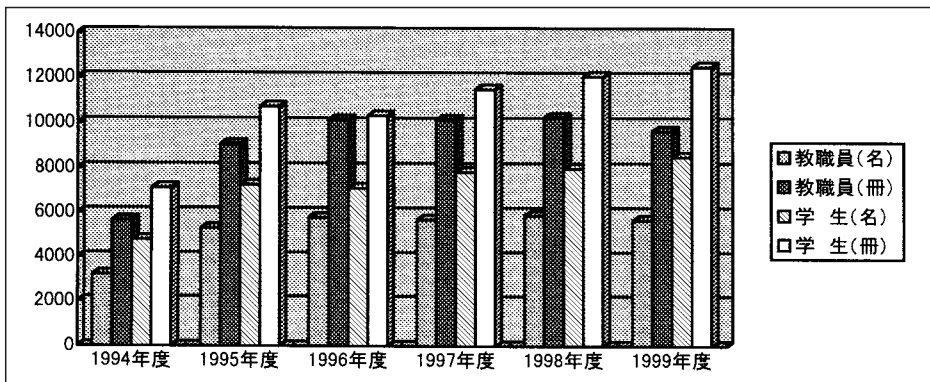


| | 教職員等 | 学 生 | その他 | 合 計 | 1日平均 |
|--------|-------|--------|------|--------|------|
| 1994年度 | 20470 | 49817 | 597 | 70884 | 440 |
| 1995年度 | 41468 | 98086 | 2421 | 141975 | 486 |
| 1996年度 | 44001 | 108530 | 2220 | 154751 | 541 |
| 1997年度 | 44672 | 116922 | 3224 | 164818 | 564 |
| 1998年度 | 48451 | 117799 | 3182 | 169432 | 584 |
| 1999年度 | 42648 | 96546 | 2730 | 141924 | 545 |

(1994年度は、9月5日から翌3月31日まで)

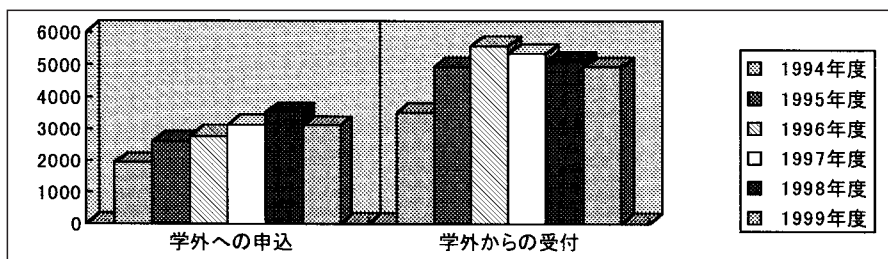
1999年度は、8月22日から9月30日までの入館者数が、図書館システムおよび入館システム更新のため計測されておりませんので、前年度との比較が単純にはできません。

2. 貸出



1999年度は、教職員で貸出者数が4%の減少、冊数が6%の減少、学生では、貸出者数は6%の増加、冊数は3%の増加となっています。

3. 相互貸借



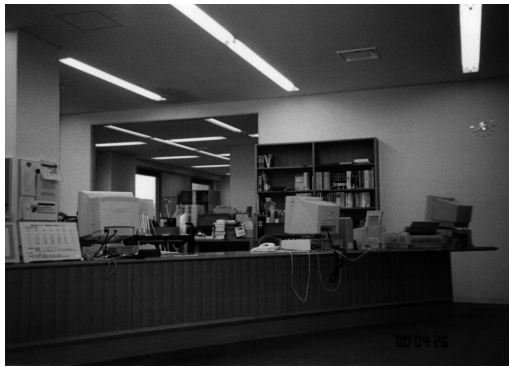
| | 教職員(名) | 教職員(冊) |
|--------|--------|--------|
| 1994年度 | 1919 | 3505 |
| 1995年度 | 2586 | 4932 |
| 1996年度 | 2760 | 5583 |
| 1997年度 | 3122 | 5319 |
| 1998年度 | 3502 | 5111 |
| 1999年度 | 3091 | 4909 |

相互貸借では、校外への申込が、前年度より12%減少しています。校外からの受付は、4%の減少です。

なお、1998年度の件数を図書館報14号で4312件と報告しておりましたが、5111件が正しい数字でした。



滋賀県立大学は JR 東海道本線南彦根駅から西へバスで13分ほどの、琵琶湖岸近くにあります。平成7年に旧滋賀県立短期大学を元に、4年制大学として環境科学部、工学部と人間科学部をもち開学し、併せて看護短期大学部も隣接して設置され現在に至っています。平成11年度における教員は179名、事務職員は112名で、学生は1978名、大学院生はこの年からのスタートで115名とのことです。



メインカウンター

この新しい大学のキャンパスライフにふさわしい施設として「図書情報センター」が設置されました。同センターは「図書館」部門と「情報センター」部門とで構成されています。

図書館では、平成11年度で約22万冊の図書と、880誌の雑誌を所蔵し、その他に多くのAV資料を揃えています。図書館システムは入館から貸出、蔵書検索に至るまで全てコンピュータ化されています。Current Contents 等の

文献検索システムもネットワーク化されてサービスされています。また、看護短期大学部にも分館をもち本館と同一の図書館システムにて運営されています。

情報センターでは、学内情報ネットワークシステムの整備、管理運営を行っており、情報処理演習室のパソコン等を、学生の自主学習のために開放されています。

図書情報センターの建物は地上3階建てで、エントランスから自然にスロープを上がり入り口に着くとそこは2階部分となっています。建物中央部が円筒形に吹抜けとなっており、全体的に明るい感じがします。

図書館部門の2階部分は和洋参考図書や講義指定図書、同校教員著作物を配置した閲覧室と、貸出カウンターおよび事務室があります。

3階も閲覧室で和洋別に図書が、また滋賀県関係の図書・雑誌等の資料は別途まとめて配架されています。また8人ほどが利用できるグループ閲覧室が2室あります。

下って1階は書庫となっており和洋雑誌、新聞、官報や特定コレクションが収められています。雑誌類は貸出しておらず、配置してあるプリペイド式複写機に生協で購入したカードを用いて、複写することになっています。個人閲覧用個室が10部屋あり、教員閲覧室が2部屋あります。

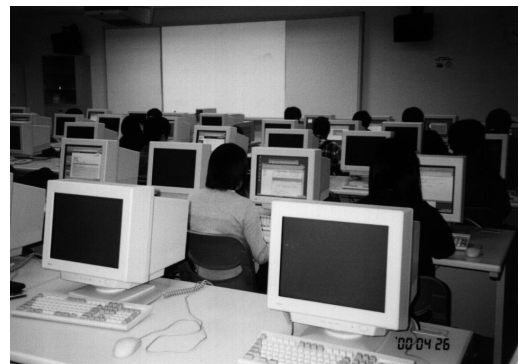
情報部門の施設内には、2階に情報処理演習室が3部屋あり都合171台のパソコンがあります。授業時間以外なら学生が自由に利用でき、各自の演習課題に関するレジメ等の情報をサーバー機から引出し、レポート作成等ができます。

3階には51台の端末を備えた CAI (Computer assisted (or aided) instruction : コンピュータ援用学習) 教室があります。その他にグループ学習用のLL教室が2室あります。なお1階は情報管理室です。

看護短期大学内にある分館には、図書約3万冊と雑誌80誌を所蔵し、情報処理演習室が1部屋用意されています。

自然環境に恵まれ最新の設備を導入した図書情報センターは、新しい大学の活気に満ちた教育・学習空間を提供されているように思えました。

(宮本)



情報センター部門 (情報処理演習室)

この原本は、臨濟義玄と言う禅僧の教えを弟子の三聖が言行録の形で書き記したものである。このようにある人の思想を伝えるために、その人の日常生活の断片を記述する方式は、論語の例を引くまでもなく、昔の中国でよく見られるスタイルである。しかし高校の漢文の教材に使える論語などと異なって、このジャンルの本は、「禅問答のようだ」と形容されるように、理解不能な事の名詞となっている。それは、この本が、読者の読む技術を高める目的で、又はその技術がどれだけあるのかをテストをする目的で書かれているために、理解に必要な部分がわざと削除されているからである。

この難解さの原因を端的に説明するために、平和ラッパ、久丸の漫才のワンシーンを思い浮かべて頂きたい。久丸がラッパに道案内をするために、ある建物を指さしている場面である。

久1「この先を見てみ。」：

ラ2「指がついとる。」：

久3「指の先や。」：

ラ4「爪がついとる。」：

久5「違うがな。爪の先や。」：

ラ6「ごみがついとる。」：

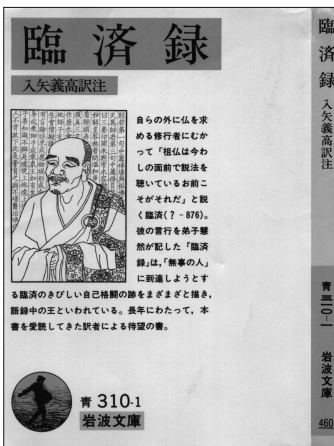
久7「僕の言うてんのは、指の指してる方向にあるあの建物を見てみ
と言うとんねん。」：

ラ8「それを先に言わんかい。物の言い方も知らんのか。頼りないや
っちな -。」：

これは、型通りの漫才の会話であり、「こんな頼りないのんつれて漫才してますねん。」「苦労しますわ。」「それは僕の言うことや」「ほな、さいならー。」がつけば立派なエンディングである。ところが、この道案内をしているという状況の説明や7番目の久丸の台詞が省かれれば、たちどころに了解不能の少々気味の悪い会話になる。さらに、これを「この指を看よ」「爪存す」「老漢は話頭も也た識らず」などと書き下し文風に訳すれば、この漫才のワンシーンは立派な禅問答に成り得る。この物語は、この様な書き方を取っているために分かり難いのである。

此处まで説明するともうお分かりのように、この物語を読み解くには、今説明した過程を逆に辿ればよいのである。この語録に、状況の説明や話者の意図をつけ加えれば、これは単純で明快な物語になる。状況の説明は自己の本質（自性）が課題になっていることや話者の意図が「今、此处、私」になっていることが多い。さらに細かいことをつけ加えると、自性と言う言葉には、（自性＝無性＝予定調和の実現している世界）の華嚴経独特の言葉の言い替えがなされている場合がよくある。これを前後につけ加えて読むことで、この物語の大半の意図は推察できる。

さて、今回紹介している臨濟録は、岩波文庫の三回目の改版本である。ひとつ目の版は、テレビの水戸黄門の題字を揮毫されている朝比奈宗源老子の訳注で、白文と書き下し文のみからなっている。次の版は昭和41年に同じ訳者が、その当時この種の本には珍しかった現代語訳を付けて、非常に読みやすい形にしている。そして三番目の版は、入矢義高氏の訳で平成元年に出版されている。この訳の特徴は、禅家で行われている伝統的な読み方にとらわれず、臨濟録がつけられた当時に使われていた俗語を用いて現代語訳を行ったところにある。たとえば、「得力」という語句は、旧版では「力を得る」と訳されてあったのに対して、新しい版では「おかげを被って」と読み下されている。また「解」は「理解する」から「～できる」と訳されており、「不解説法」は、「説法を理解できない」から「説法することができない」と改められている。このように、物語を読み解くのに必要な細かいニュアンスが現代語で表現されている。古典の文庫本など何百年前に書かれた文章で、



何十回と同じ版を重ねているように思われているが、このような新陳代謝もおこっているのである。

この分野の本は、読書子に特に人気のないジャンルに属している。しかし、伝統的な読み方を意識することをやめて、「言葉足らずの漫才」ぐらいに思って気楽に読んだ時には、実に愉快的な読み方ができることを請け合っておく。そのような我田引水の読書をするときに、今回紹介したこの本は、現代語訳の正確さから格好のテキストとなる。

(わたなべ・ふさお 化学講師)

平成11年度図書館統計

年間受入図書および製本冊数

| | 購入図書 | | 製本雑誌 | | 寄贈図書 | | 計 | | 合計 |
|--------|------|-----|------|------|------|----|------|------|------|
| | 和 | 洋 | 和 | 洋 | 和 | 洋 | 和 | 洋 | |
| 図書館 | 996 | 163 | 672 | 1056 | 294 | 46 | 1962 | 1265 | 3227 |
| 教室図書 | 37 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 37 | 3 | 40 |
| 研究費 | 378 | 69 | 0 | 0 | 0 | 0 | 378 | 69 | 447 |
| 計 | 1411 | 235 | 672 | 1056 | 294 | 46 | 2377 | 1337 | 3714 |
| さわらぎ分室 | 769 | 5 | 8 | 6 | 11 | 0 | 788 | 11 | 799 |
| 研究費 | 79 | 279 | 0 | 0 | 0 | 0 | 79 | 279 | 358 |
| 計 | 848 | 284 | 8 | 6 | 11 | 0 | 867 | 290 | 1157 |
| 合計 + | 2259 | 519 | 680 | 1062 | 305 | 46 | 3244 | 1627 | 4871 |

受入カレント誌

| | 購入 | | 寄贈 | | 計 | | 合計 |
|--------|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|
| | 和 | 洋 | 和 | 洋 | 和 | 洋 | |
| 図書館 | 319 | 517 | 659 | 117 | 978 | 634 | 1612 |
| 研究費 | 17 | 22 | 0 | 0 | 17 | 22 | 39 |
| 計 | 336 | 539 | 659 | 117 | 995 | 656 | 1651 |
| さわらぎ分室 | 32 | 47 | 1 | 0 | 33 | 47 | 80 |
| 研究費 | 3 | 9 | 0 | 0 | 3 | 9 | 12 |
| 計 | 35 | 56 | 1 | 0 | 36 | 56 | 92 |
| 合計 + | 371 | 595 | 660 | 117 | 1031 | 712 | 1743 |

図書館蔵書数

平成12年 3月31日

| | 図書 | | | 雑誌(所蔵タイトル数) | | |
|--------|--------|---------|---------|-------------|-------|-------|
| | 国内 | 外国 | 計 | 国内 | 外国 | 計 |
| さわらぎ分室 | 29,298 | 26,309 | 55,607 | 205 | 162 | 367 |
| 専 門 | 66,564 | 75,140 | 141,704 | 2,460 | 1,615 | 4,075 |
| 合 計 | 95,862 | 101,449 | 197,311 | 2,665 | 1,777 | 4,442 |

平成12年度図書館合同運営委員会委員(平成12年4月1日現在)

図書館長 清金 公裕(皮膚科学)/基礎系 岡田 仁克(第二病理学)、林 秀行(医化学)/社会系 鈴木 廣一(法医学)/臨床系 森 秀麿(麻醉科学)、北浦 泰(第三内科学)、上田 陽彦(泌尿器科学)、猪木 千春(産婦人科学)/学生部 大槻 勝紀(第一解剖学)、玉井 浩(小児科学)/さわらぎキャンパス 西村 保一郎(数学)/看護専門学校 城戸 滝枝、森山 幸子/図書館 茂幾 周治、崔 照子、松本 玲子

本学教職員著作寄贈

- 太田 富雄 (脳神経外科学)
脳神経外科ハンドブック / 太田 富雄 監訳 2000
- 木下 光雄 (整形外科外科学)
足部診療ハンドブック / 木下 光雄 他編 2000
- 河野 公一 (衛生学・公衆衛生学)
医師、歯科医師、薬剤師のための介護保険実務ガイドブック / 河野 公一 編著 2000
- 大槻 勝紀 (第一解剖学)
臓器別アポトシス証明法 / 大槻 勝紀 他編 2000

図書館業務日誌

- 12月
8日(水) - 10日(金)
日本医学図書館協会基礎研修会
に館員参加(於、愛知医科大学
医学情報センター)
- 16日(木) 図書館合同運営委員会(於、図
書館会議室)
- 平成12年1月
20日(木) 新潟大学附属図書館旭町分館館
員が見学来館(一名)
- 25日(火) 日本医学図書館協会資料保存委
員会(於、図書館会議室)
- 2月
2日(水) 日本医学図書館協会将来計画委
員会(於、国立公衆衛生院)
- 17日(木) 図書館合同運営委員会(於、図
書館会議室)
- 23日(水) 香川医科大学図書館員が見学来
館(二名)
- 28日(月) 日本医学図書館協会企画・調査
委員会(於、兵庫医科大学図書
館)
- 3月
14日(火) 館報編集委員会(於、図書館会
議室)
- 15日(水) 薬学図書館協議会理事来館(一
名)
- 23日(木) 図書館合同運営委員会(於、図
書館会議室)
- 24日(金) 日本医学図書館協会資料保存委
員会(於、図書館会議室)
- 4月
10日(月) 新入生図書館オリエンテーショ
ン(於、さわらぎキャンパス)
日本医学図書館協会総務会(協
会中央事務局)
- 13日(木) 看護専門学校新入生図書館オリ
エンテーション(於、大研修
室)
- 19日(水) 日本医学図書館協会将来計画委
員会(於、国立公衆衛生院)
- 20日(木) 日本医学図書館協会理事会・評
議員会(於、野口会館)
- 27日(木) 図書館合同運営委員会(於、図
書館会議室)
- 28日(金) 近畿地区医学図書館協議会(於、
田附興風会医学研究所)

編 集 後 記

今回のトップ記事は、北浦教授に、またエッセイは林助教授にお願いしました。「二十一世紀の医療環境」のシリーズは6回目になります。今回は、新年度号になりますので、新しい図書館運営委員の方のお名前や、図書館の年次統計も掲載しました。その他沢山の方に執筆していただき、有り難うございました。表紙のカットは北村達郎氏にお願いしました。OMNIBUSへの読者からの投稿を歓迎いたします。(茂幾)

OMNIBUS「大阪医科大学図書館報 / 大阪医科大学附属看護専門学校図書室報」
No.17号 2000年6月5日 発行
編集・発行 大阪医科大学図書館
〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7
TEL (0726) 83-1221
(内線2799, 2621)
印刷 大日本印刷株式会社